

■公共図書館と連携する小学校での実践事例

公共図書館と連携しながら、マルチメディアDAISY図書を広げる —読むことが困難な児童へのアプローチ

兵庫県伊丹市立鈴原小学校
学校司書 吉田 瑞絵

はじめに

伊丹市では、月に1回ほどすべての小・中学校の学校司書を集めた講習会が行われています。その機会を利用して、伊丹市立図書館と毎回さまざまな情報共有を行っています。その折にマルチメディアDAISY図書の紹介をいただきました。それまでは詳細な利用方法はわかりませんでしたが、具体的な紹介をしていただき、ぜひ鈴原小学校において実践してみたいと思いました。

実践報告

鈴原小学校では、図書の授業の際に、通常学級と特別支援学級の子どもたちが一緒に図書館で過ごします。本が大好きな子どもたちにとっては有意義な時間ですが、本が読めない子どもにとってはどうしても退屈な時間となってしまいます。すべての子どもにとって有意義な時間となるよう、一人ひとりのニーズに応えることを目的に担任と子どもの情報を共有し、支援の方法を考えています。

講習会でマルチメディアDAISY図書の説明を聞いた時に、私はある子どもの

ことが頭に浮かびました。その子どもは学習障害の疑いがあり、絵本を読む際に文字を順番にうまく目で追うことができず、読書に対する興味を維持するのがむずかしい状況でした。そこで、マルチメディアDAISY図書がもつ「読み上げている文字部分のハイライト機能」「文字の拡大機能」に着目し、読むにつれて色が変わっていく文字を追いかける形で、文字を順番に読むトレーニングを行おうと考えました。

クラスに複数、読むのが困難な子どもがいたため、同時に何名か声をかけて実施しました。また、担任の先生とマルチメディアDAISY図書の活用方法を相談し、授業で他の子どもへ図書を貸し出した後に、その子どもに対してはマルチメディアDAISY図書を読んでもらうことにしました。マルチメディアDAISY図書はハイライト機能の他にも、スピードや色を自分で選べることから、「かめとうさぎ、どっちがいいかな？」などと子どもと会話をしながら調整を行いました。特に、子どもの興味・関心をよりつなげるために、次のような点に気をつけ

ながら実施しました。

学習面について

- 「わいわい文庫」の中から、児童自身で本を選択させ、関心をもたせる。
- ゆっくり本を読む練習であることを伝え、あわてないように声掛けする。
- 読んでいる様子を観察し、次回の読書の改善につなげる。

心理面について

- 読書に対する障壁を感じないように留意しながら、新しい読書スタイルとして認識させる。
- 「図書の時間」の学習として、なるべく他の児童と同じような空間づくりに配慮する。

成果

このような取り組みを続けることにより、その子どもは文字を追う際に目が不安定に動いてしまう姿が減り、しっかりと文字を追いながら読むことができるようになりました。学年が変わった現在でも、その子どもからはマルチメディアDAISY図書を借りてきてほしいと頼まれることもあります。読書に対する意欲喚起という点でも、マルチメディアDAISY図書の効果は継続していると思います。

感想

こうした経験をふまえ、マルチメディアDAISY図書は通常の書籍を読むことが困難な子どもに臨機応変に対応でき、読むことが困難であったり読む力が不足していたりする子どもの助けにもなることを実感しました。今後も子どもの読みたい気持ちを汲み取り、その力を伸ばすタイミングを逃さないようにしたいと思います。

また、マルチメディアDAISY図書はデータのため持ち運びが簡単で、パソコンさえあれば「見せたい、読ませたいタイミング」で、いつでもどこでも活用できるというアクセシビリティ機能も有効な要素であると考えます。図書館だけでなく、家庭においてもマルチメディアDAISY図書を積極的に利用することにより、子どもの学びをより促進する取り組みがますます広がるのではないかと感じています。

図書館の方から具体的なマルチメディアDAISY図書の説明があったからこそ、このような気づきを得ることができました。そして公共図書館との連携は必要不可欠であると改めて認識しました。今後もさまざまに連携し取り組みを通じ、子どもたちの読む力を伸ばしていきたいと思っています。